



## ご 挨拶

会長 山中 章右(D35)

緑会会員の皆様にはご清祥のこととお喜びいたします。平素は緑会へ的一方ならぬご支援・ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

ここ一年を振り返って見ますと日本の経済はバブルがはじけて以来、失われた10年が過ぎ、やっと明るい兆しが見え始めたと思っていて矢先の原油の高騰に続きサブプライムローン問題に端を発した世界同時不況で、一挙に不況のどん底に叩き落されています。そんな中、昨年新しい役員で発足し、総会で承認された緑会の行事は先生方の積極的なご支援により、滞りなく計画通りに進捗しております。主行事であります「講演会・懇談会（キャリアサポート交流会）」は3月6日に開催され、昨年からは始まったポスターセッションにも改善が加えられ53社の参加をいただき、学生たちも真剣に質問をしておりました。第2部の講演会では時宜を得た「温暖化抑制への中長期技術・社会シナリオと私の活動」と題して、堀尾正朝氏（D41卒 東京農工大学 名誉教授 現科学技術振興機構）の熱気あふれるご講演に参加者も感慨深く聞き入っておりました。

第3部では来賓として松井学長、篠田名古屋工業会理事長のご臨席を賜り、賑やかにかつ有意義な会を持つことができました。来年は今年よりさらに改善が加えすばらしい会を開催されることを念じております。

同窓会とは先輩後輩との絆をがっちり結び、これが社会活動において重要な手助けになる位置を占めるものになるものであると確信しております。

しかしながら「個人情報保護法」が施行されて以来、神経質になり過ぎて名簿が発行されていません。これが同窓会関係を希薄にしているのではないかと感じています。この状態を打破するためには、名簿の管理を正確にし、ネットワーク化することこそ重要と考えています。そして会員の皆様には、積極的に行事に参加され親睦、交流を深めることこそ、社会生活にとって力強い武器になり得るものと考えております。緑会には東京支部、近畿支部、しかありませんが名古屋工業会には、全国に24支部あります。名古屋工業会の行事にも、多数参加し大いに交流を深め、緑会の力を大いに示していただきますようお願いいたします。

来年度には、緑会に名古屋工業会名古屋支部支部長のお鉢が回ってきます。単科会の威信に掛けても緑会の活動共々、支部行事をも活発化させねばなりません、会員皆様方のいっそうのご支援・ご鞭撻をお願いいたします。

末筆になりましたが、幹事長の伊藤豪氏が本年黄綬褒章を受けたと聞いておりますのでご報告申し上げます。

## 緑会からの“ご報告”と“お願い”

幹事長 伊藤 豪(D41)

緑会会員の皆様にはご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。私も幹事長の大役を仰せつかり早1年が過ぎました。慣れぬ事の連続ではございましたが、何とか緑会の行事を例年通り進めて参る事ができました。これも副幹事長他の役員の皆様方、或いは学内幹事の先生方の御支援の賜物と感謝しております。この中で私共の不手際により「緑会ニュース炎」（本稿）の刊行が、例年より1ヶ月以上遅れてしまいました。この場をお借りしお詫び申し上げます。以下は、昨年度に行ないました事業の一覧でございます。

- I. 総会・懇親会の開催（平成20年6月28日（土））
  - ・学術講演：「弱者協力、意外と強力 一固体酸塩基触媒を用いる新プロセスの工業化」  
株式会社日本触媒 触媒研究所所長 嶋崎 由治氏（D41）
- II. 講演会・懇談会（キャリアサポート交流会）の開催（平成21年3月6日（金））
  - ・キャリアサポート交流会（参加企業55社70名）

- ・講演会（参加者約100名）
- ・懇談会（参加者 382名 内企業出席者 65社95名）
- III. 緑会ニュース「炎」の刊行
  - ・昭和49年以前の卒業生にのみ郵送。昭和50年以降の卒業生にはホームページを利用していただく。
- IV. 名古屋工業会への協賛
  - ・名古屋工業会総会と見学会に緑会から2学内幹事2名が参加
- V. 会議
  - 役員会 3回、常任幹事会 4回、学内幹事会 1回、学生連絡員説明会 2回

追記事項と致しまして、平成21年6月28日（土）に行なわれました今年度の総会・懇親会（平成21年6月28日（土））では、50名を超える方々に御参加者を頂き総会、張将司氏（D45）による「工業用アルコールの変遷と課題」の学術講演、懇親会が行なわれました。



H21年度総会より（学術講演）



H21年度総会より（懇親会）

最後に、昨年度よりD50以降の卒業生の皆様には「炎」の発送を中止させて頂き、下記のサイトを参照して頂く段取り

となっております。ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。  
<http://www.ach.nitech.ac.jp/~midori/index.html>

## 生命・物質工学科および緑会の沿革

- |             |                                                  |             |                                                                        |
|-------------|--------------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------|
| 明治38. 3. 28 | 名古屋高等工業学校創立に際し色染科として設置される（3年生）                   | 昭和36. 3. 31 | 短期大学部が廃止される。                                                           |
| 明治41. 3.    | 第1回卒業生7名輩出（同窓会名：DD倶楽部と称す）                        | 昭和36. 5. 19 | 名古屋工業大学工業教員養成所（3年制）が併設され、工業化学科が設けられる。                                  |
| 昭和 4. 4. 1  | 工業教員養成所の敷設に伴い色染科が設けられる。                          | 昭和39. 4. 1  | 大学院工学研究科（修士課程、2年制）工業化学専攻が設置される。                                        |
| 昭和12. 4.    | 同窓会名：名染會と改称                                      | 昭和42. 4. 1  | 合成化学科が増設される。                                                           |
| 昭和14. 3. 29 | 科名を色染化学科と変更する                                    | 昭和44. 3. 31 | 名古屋工業大学工業教員養成所が廃止される。                                                  |
| 昭和16. 4. 1  | 科名を工業化学科と改称し、色染・合成・窯業の3分科とする。                    | 昭和46. 4. 1  | 大学院工学研究科に合成化学専攻が設置される。                                                 |
| 昭和17. 3. 23 | 第2部（夜間、4年制）の併設に伴い工業化学科が設けられる。                    | 昭和60. 4. 1  | 大学院工学研究科博士課程（前期2年、後期3年）物質工学専攻が設置される。学部は第1部が応用化学科に改組され、第2部が応用化学科に改名される。 |
| 昭和19. 4. 1  | 名古屋高等工業学校が名古屋工業専門学校と改称されるにあたり、化学工業科となり窯業分科が置かれる。 | 平成16. 4. 1  | 第1部が生命・物質工学科に改組され、第2部が物質工学科に改名される。                                     |
| 昭和20. 4. 1  | 窯業分科が窯業科として独立する。                                 | 平成20. 3. 26 | 緑会第100年目の卒業生を輩出する。                                                     |
| 昭和23. 3. 31 | 第2部が廃止される。                                       | 平成21. 4. 1  | 大学院工学研究科博士課程（前期2年、後期3年）未来材料創成工学専攻、創成シミュレーション工学専攻が独立専攻として設置される。         |
| 昭和24. 5. 31 | 名古屋工業大学の発足に当たり、工業化学科として設置される。                    |             | （途中昭和27年度は3年制から4年制に移行のため卒業生零）                                          |
| 昭和26. 3. 31 | 名古屋工業専門学校および同附設工業教員養成所が廃止される。                    |             | （ただし、戦時中は2回/年の卒業があった）                                                  |
| 昭和28. 4.    | 同窓会名：緑会と改称                                       |             |                                                                        |
| 昭和32. 4. 1  | 短期大学部（夜間、3年制）に工業化学科が増設される。                       |             |                                                                        |
| 昭和34. 4. 1  | 第2部（夜間、5年制）の設置に伴い工業化学科が設けられる。                    |             |                                                                        |

## ご挨拶

生命・物質工学科 副教育類長 大谷 肇

緑会の皆様方には、日頃より本学科に対して多大なご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

例年同様、この3月には第一部生命・物質工学科および第二部物質工学科卒業生、ならびに関連する大学院物質工学専攻生命機能・プロセス分野の修了生、合わせて100名を超える学生・院生が新たに社会へと巣立って行きました。私自身は、昨年、就職担当を務めさせていただきましたが、就任当時は団塊の世代が定年を迎えることなども影響して、稀にみる「売り手市場」となっていました。しかし、就職希望者の進路がほぼ内定した昨秋に、急速な景気後退局面となって状況は一転し、現在就職活動を行っている学生・院生諸君は、大変な苦戦を強いられております。こうした時期にこそ、長年にわたって築き上げられてきた、緑会の皆様との強い結びつきをできるだけ生かして、この難局を乗り切りたいと考えておりますので、なにとぞご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、この間の教室内の動きといたしましては、本年3月末日をもって、長年本学科の教育・研究にご尽力いただきました、齋藤勝裕教授、池田章一郎教授、ならびに越谷仁哉助教の3名の先生方が定年退職されました。改めて感謝の意を表したいと思えます。また、これに先立つ昨年8月に、下村吉治教授が名古屋大学大学院生命農学研究科に転任され、さらに3月1日付けで、古谷祐司助教が岡崎の分子科学研究所に、准教授としてめでたくご栄転されています。一方、4月には、宮川 淳助教が新たに着任するとともに、川崎晋司先生が教授に昇任されました。

本学では、このところ数年にわたって、老朽化した建物の改修・耐震補強を順次進めております。本学科の多くの研究室が使用している19号館の改修工事は一昨年完了し、現在は、スペース的には決して十分ではありませんが、快適な環境で教育・研究を行っています。しかし、法人化以降全般的には、大学をとりまく教育・研究環境は年々厳しさを増すばかりです。前述した人事異動の例からも伺えるように、政府の行政改革の政策に合わせる形で人件費の削減が続いており、定年や転出で抜けた教員の穴を埋めることすらままならない状況にあります。さらに、大学から各教員に支給される基盤的な教育研究費は、事実上ほとんどない状態で、いわゆる競争的な外部資金の獲得に奔走することを余儀なくされています。また、これらとも関連した様々な「自己点検・評価」も花盛りで、「評価疲れ」なる言葉が日常的に交わされるほど、これらに割かざるを得ない時間とエネルギーも半端なものではなくなってきました。その結果、教員はますます多忙化・疲弊しているのが実情です。

このように厳しい状況下ではありますが、将来のわが国を背負う新たな人材育成を担っているわれわれが、簡単にへこたれるわけにはいきません。これからも、若い先生方の力をできるだけ生かしつつ、教育研究に最善を尽くす所存であります。緑会の皆様方には、今後とも大学ならびに本学科へのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、緑会会員の皆様方のご健勝と益々のご発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

## ご挨拶

生命・物質工学科 副教育類長(就職担当) 多賀圭次郎

緑会の皆様方には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。このたび就職担当という大役を仰せつかりました。何分不慣れではありますが、精一杯努めさせていただくとともに、主担当の大谷先生をしっかりと支え、かつ盛り上げていく所存でございます。

さて、就職の現状を申しますと、昨年後半からの世界的な経済変動の煽りを受け、学生達の就職活動も厳しさを増しております。しかし、そういった中でも、多くの方々から後輩達へご高配を賜り、篤く御礼申し上げます。

ところで、本学のホームページに入っても、どの学科(プログラム)や大学院(専攻分野)が緑会であるのかよくわからないという話をよく伺います。そこで、あらためて緑会系分野について紹介させていただきます。学部生は第1部生命・物質工学科(物質化学及び生物生命プログラム)と第2部物質工学科の所属です。大学院生は、物質工学専攻(プロセス分野と生命機能分野)及び昨年からはまった未来材料創成工学専攻(ナノ・ライフ変換科学分野)並びに創成シミュレーション工学専攻(計算応用科学分野)の所属です。基本的には第1部生命・物質工学科(物質化学及び生物生命プログ

ラム)の学生を指導する教員の研究室(旧応用化学系研究室)の卒業生とご理解ください。

さて、本年度は、前期課程大学院2年生76名のうち、70名ほどが後期課程進学希望者で、1部・2部の学部生約140名のうち、100名ほどが前期課程進学希望者です。就職希望者には学内サーバーを通じて就職情報等を配信していますが、内定を得ましたという報告にはともに喜び、残念な結果でしたという報告には、もっと元気に、もっと明るくと、ともに就職戦線を戦っております。

また、受け入れ企業側が学部生よりも大学院生を希望される件数が多くなっているため、就職活動全体も学部生より大学院生が主となっています。大学院進学希望の学部生が増えているのもそういった実情からです。また、学生達の就職活動も自由応募が主体で、推薦応募を希望する学生の数は少なくなってきました。

こういう現状ではありますが、今後とも後輩達の育成のために、さらなる温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、緑会の皆様方のより一層のご健勝とご発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

# 新任教員紹介

## 就任挨拶

宮川 淳

2009年4月1日付けで、助教として赴任致しました宮川淳と申します。私が学部を卒業してから、約10年が経とうとしております。その間に、大学も大きく様変わりし、厳しい状況にあると感じております。しかし、大学は今後も変革を続け、より良い教育環境を提供し、次世代を担う人材を輩出していかなければなりません。私も、微力ではございますが、日々取り組みで参る所存です。

私の専門は、糖鎖工学という砂糖を化学し、工学へと繋げていくことです。糖鎖は、生体に多く存在しており、影の主

役のような役割をしております。遺伝子のような派手さはありませんが、近年の分析技術の発展により、構造解析が詳細にできるようになり、急速に発展している分野です。私は、現在、食べる砂糖から構造材料としての砂糖と様々な分野で活躍している砂糖をより広く高機能素材として利用できるよう研究を行って参ります。

本学は、世界のものづくりを推進してきた東海地区にあり、この地に多くの人材を輩出し、今の地位を築いております。多様化する大学の中において、本学の特徴を活かした教育を発展的に継続するためにも、多くの方々のご支援やご意見を賜わりながら、自分自身も成長していきたいと考えています。今後、緑会の皆様には、ご指導頂く機会が多くあるかと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 教員の異動（2008. 4以降）

退	職	2009年 3月31日	池田章一郎	教授
退	職	2009年 3月31日	斉藤 勝裕	教授
退	職	2009年 3月31日	越谷 仁哉	助教
転	任	2009年 2月28日	古谷 祐詞	助教
（岡崎国立共同研究機構分子科学研究所准教授）				
昇	任	2008年 4月 1日	柴田 哲男	教授
昇	任	2008年 4月 1日	山下 啓司	教授
昇	任	2008年 4月 1日	出羽 毅久	准教授
昇	任	2008年 4月 1日	中村 修一	准教授
昇	任	2008年 4月 1日	船橋 靖博	准教授
新	任	2009年 4月 1日	宮川 淳	助教

## 平成20年度卒業生就職先一覧

### ●博士課程後期●

《就職先》

日東電工 新日本石油 JSR 小野薬品 明成化学工業

### ●博士課程前期●

《就職先》

DIC DOWAホールディングス GSユアサ INAX  
 JSR アイシン精機 旭化成 旭硝子 イビデン オカモト  
 花王 カネカ 関西ペイント 京セラ 協和発酵ケミカル  
 キリンビール サカタインクス サンスター 塩野香料  
 住友金属鉱山 住友軽金属 積水化学 ソニーEMCS  
 大王製紙 大洋薬品工業 中部電力 千代田化工建設  
 東亜合成 東海東京証券 東洋インキ 東洋ゴム工業 東洋紡  
 トヨタ自動車 豊田自動織機 トヨタ車体 トヨタ紡織  
 長瀬産業 日機装 日油 日東電工 ニデック 日本ガイシ  
 日本触媒 日本特殊陶業 日本ペイント 日本メカノケミカル  
 ネットフォース㈱ 東ソー 日立化成工業 ブラザー工業  
 ポリプラスチックス 三菱化学 三菱重工 三菱レイヨン  
 ムラタ計測器サービス 村田製作所 明成化学工業  
 メタウォーター ヤガミ ライオン

《進学先》

名工大 博士後期課程 未来材料創成工学専攻

### ●第一部●

《就職先》

旭化成ファーマ 尾池工業 キヤノン グンゼ コーセル 米久  
 敷島製パン 東西産業 東芝情報システム 東芝テック  
 豊田合成 トヨタ紡織 日本たばこ産業 日本プラスチック  
 三重県庁 三菱東京UFJ銀行 持田製薬 公務員

《進学先》

名古屋大学 大阪大学 静岡大学  
 名工大 博士前期課程 物質工学専攻  
 名工大 博士前期課程 未来材料創成工学専攻  
 名工大 博士前期課程 創成シミュレーション工学専攻  
 名工大 博士前期課程 産業戦略工学専攻

### ●第二部●

《就職先》

VSN アイヴィス 愛三工業 石塚硝子 京セラ ゴムノイナキ  
 自衛官 シャチハタ スギムラ化学 東海染工 東海理化  
 名古屋市役所 名菱テクニカ 日研総業 マルヤス工業  
 リクルートスタッフィング

《進学先》

名古屋大学  
 名工大 博士前期課程 物質工学専攻  
 名工大 博士前期課程 未来材料創成工学専攻  
 名工大 博士前期課程 産業戦略工学専攻